

愛知医科大学医学情報センター(図書館) めりーらいん健康支援事業



学生数 1,258名
館員数 専従7名
蔵書数 156,677冊 [2013年4月現在]
所在地 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
TEL 0561-61-5402

内容

瀬戸市立図書館、尾張旭市立図書館、日進市立図書館、長久手市中央図書館、愛知医科大学医学情報センター(図書館)による「健康支援」活動。年間を通して、次の活動を行っている。

- ①医療・健康について、最新で信頼できる内容が分かりやすく解説されている図書の提供
- ②病気や症状についての「調べ方ガイド(メディカルパス)」の共同作成
- ③医療・健康について楽しく学べるイベントの開催
- ④医療・健康情報に強い地域づくりを目指した、図書館職員による連絡会の定期的実施

平成22年度「大学図書館における先進的な取り組みの実践例—大学の学習・教育・研究活動の質的充実と向上のために—」(文部科学省)採択事業である。

概要

対象者：すべての利用者

実施期間：2007年5月～

実施場所(連携館)：瀬戸市立図書館、尾張旭市立図書館、日進市立図書館、長久手市中央図書館、当館

担当職員数：8名(当館3名、公共図書館5名)

きっかけ

- ・平成17(2005)年ごろから「患者図書サービス」の必要性が広く話題に取り上げられるようになり、当館でも関心を寄せ始めていたこと。
- ・愛知医科大学では、平成18(2006)年度に公益財団法人大学基準協会の大学認証を受審したが、その評価項目の中に「図書館の地域公開」があった。当館は医学・看護学の専門図書館であるため、一般市民(地域住民・入院患者等)が理解できる資料はほとんど収集していなかったが、近隣の公共図書館が連携し、各館の所蔵資料を利活用することで、一般市民に対しても何らかの貢献ができる方策があるのではないかと考えるようになったこと。

開始にあたって

準備期間：約12ヶ月

準備の概要：

2006年9月

センター長、事務長、担当者の3名で各公共図書館を訪問。事業の主旨、意義、業務内容を説明し、事業への参加を求めた。

2007年2月

地域連携パスファインダーを試作

2007年5月

第1回連絡会議を開催し、事業を開始した。

広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内・館外）
放送（館内・館外）、図書館ホームページ、プレスリリース、グッズの配布、学内印刷物への記事掲載

費用：年間30万円

イベント開催（謝金、交通費、雑費）、書籍や視聴覚資料の購入、事業案内リーフレットの印刷、マスコミキャラクターの商標登録、その他

苦労したこと・工夫したこと

- ・苦労した点：公共図書館長の承認
公共図書館では職員数の削減や委託化が進められていることから、業務量の増加（職員への負担増）が懸念された。また、医療・健康情報を提供することへの不安の声が上がった。
- ・工夫した点：事業説明
「これからの図書館像（文部科学省）」「健康日本21（厚生労働省）」といった国の政策と、公共図書館の任務をリンクさせ、取り組むべき業務であることを強調した。

始めてよかったと思うこと

- ・公共図書館と当館の間で、相談や利用者の紹介などがスムーズに行えるようになった。
- ・地域連携パスファインダーを作成することにより、公共図書館員の医療・健康図書の見つけやすくなった。また、当館職員は、家庭医学書や児童書が優れた情報資源であることに気付くことができた。
- ・公共図書館員を講師に招き、本学教職員に読み聞かせやレクリエーションの講座を実施してもらうなど、教育・診療への貢献を行うことができ

た。

- ・公共図書館・当館ともに、活動を通して、他部署や上層部に図書館の活動をアピールすることができた。
- ・当館が地域の中に入る足掛かりとなった。

今後の課題は…？

- ・一人の担当者に頼らずに、チームで継続すること。
- ・医療者からの意見を反映させ、協働すること。
- ・サービスの評価を行うこと。

伝えたいこと

- ・私立大学と公共図書館とでは設置母体が異なるため、連携しづらい場合がある。特に委託又は指定管理が導入されている公共図書館の場合、請負業者との契約事項に含まれない事業を進めることができない。これらのことから、公共図書館と連携を検討する際には、相手館の状況を十分に把握しておくことが重要である。
- ・小さなことで構わないので、継続することが大切である。
- ・公共図書館員（公務員）は数年のサイクルで人事異動することが多いため、知識・スキル・人脈を幅広く持ち合わせている。彼らと協働することは、我々のスキルアップに繋がるため、機会があれば、是非チャレンジしていただきたい。

空間

学生

教員

他部署



愛知県立大学学術情報研究センター 共同図書館



学生数 3,626名
館員数 専従7名、非常勤・臨時16名
蔵書数 611,000冊
所在地 愛知県長久手市茨ヶ廻間1522-3
TEL 0561-64-1111

内容

公私5大学4図書館連携事業

連携校：愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知淑徳大学、名古屋外国語大学、名古屋学芸大学

- ①連携校での共同図書購入・共同管理による図書の貸出（個人及び連携校間）
- ②書評機能（共同図書環ホームページを通して書評書込み、コメント書き込み、書評検索可能）
- ③連携校との学生選書（パス）ツアー
- ④BOOK PARTY（連携校学生・教職員との図書紹介交流会）
- ⑤共同図書巡回展示企画（年度テーマ設定し、共同図書の選書・巡回展示、装飾品作成、日本赤十字社やJICA中部との協力事業）
- ⑥Tosho Ring News 発行（機関誌）
- ⑦先進事例調査・見学会
- ⑧講演会・演奏会（講演作家：金原瑞人氏、内田樹氏、諏訪哲史氏、チェロとピアノ演奏会）
- ⑨運営サポートサイト（連携校間の職員情報提供・情報共有・交流）
- ⑩各種会議（連携校との図書部会・情報交換会・実務者会議）

概要

対象者：学部生、大学院生、教職員

実施期間：2008年10月～

実施場所：愛知県立大学学術情報研究センター

担当職員数：専任事務局職員1名（兼任システム担当1名）

目的：

教養図書を中心とした教育資源の共同利用を通じて、人的交流をはじめとした地域大学の連携強化を図ること

スケジュール：

①学生選書ツアー

書店集合、説明、リスト配布、書名等記入、確認、交流、記念撮影など

②BOOK PARTY

会場設営、資料配布、会場集合、受付、説明、図書持参、縦覧、図書紹介、書評記載、お茶会、交流、記念撮影など

③作家講演会

会場設営、受付、挨拶、講演、図書販売、片づけ、取材対応、謝金、呈茶、記念撮影など

きっかけ

発案者：愛知県立大学学術情報部

平成 20 年度文部科学省 戦略的大学連携支援事業（補助事業期間 20～22 年度）として立ち上げ、平成 23 年度からは 3 年間の継承事業として、分担金方式により共同図書環事業を展開している。

開始にあたって

準備期間：約 1 年

準備の概要：独自の図書管理システム開発、人材確保、機材・備品・図書購入、諸手続き

広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館ホームページ、メール、グッズの配布

費用：1 億 4342 万 7000 円

用途内訳：

2008 年度 36,427,000 円

2009 年度 45,000,000 円

2010 年度 38,000,000 円

2011 年度 8,000,000 円

2012 年度 8,000,000 円

2013 年度 8,000,000 円

苦労したこと・工夫したこと

連携事業のための各連携校の調整に苦心した。当時は前例のないシステムだったため、独自開発となかった。

実験的な取組として、各館の既存の図書館サービスとは別途独立したサービスとして実施することになったため、二重の貸出返却サービスを運用（維持）する必要があった。

始めてよかったと思うこと

①利用促進

一般教養書を中心とした図書の構築により、貸出数の増加、図書館の利用者の増加、学生の図書館活動への関与（ボランティア活動等）

②交流とネットワーク化

連携校の学生間での図書を通じた交流が促進し、書評を通じて相互に刺激しあう関係が構築された。

③大学図書館サービスの充実

共同図書環事業の取り組みは、学生視点での蔵書構築や学習環境の整備、展示手法、アクティブな

事業展開など、大学図書館の業務への刺激となり、その成果は随所に継承されている。

今後の課題は…？

- ①共同図書環の各種サービスが、大学図書館の本来業務に継承されつつあり、重複し合理的でなくなってしまった。
- ②本館と共同図書環で異なった図書館システムを併用するため、利用登録、貸出、返却が職員にとって煩雑となってしまった。
- ③事業終了後の、共同図書の大学図書館蔵書への取り込み問題。
- ④システム維持の上で保守費用、セキュリティ対応が必要となってしまった。

伝えたいこと

- ①利用者参加型の各種イベントの効果
学生ボランティアを活用し、学生視線の企画を展開。学生参加の意義は大きい。
- ②大学図書館の連携の重要性
・資料交換だけでなく、人的交流（学生・教職員）を可能とする。
・連携することにより 1 つの図書館ではできない企画を実施可能とする。
・各連携大学の特色を活かした企画運営を可能とする。
・他大学との交流・連携企画は、学生へ好影響・好刺激となるため、連携の意義は大きい。
- ③定期的な連携会議の必要性
・連携校との信頼を確保する。
・情報を共有し、意見交換・調整して企画運営に反映させる。
・連携校との事務処理等は迅速かつ正確に行う。

空間

学生

教員

他部署

旭川医科大学図書館 本を読もう！キャンペーン AMUL 77


旭川医科大学教務部 入試課・図書館情報課・学生支援課タイアップ企画

本を読もう！キャンペーン
第1回 **スタンプカード** AMUL77

NAME _____ 医学科・看護学科・大学院
年 _____

・カウンターで借りた本1冊につき1個裏面に押印。
・20個集めた方先着77名様にプレゼント。
・複数カードの合算はできません。
・次の場合は押印できません。
・カードの貸借・自動貸出装置利用
・その他不正が認められた場合
・カードの紛失には対応できません。新たにはじめて下さい

問合せ先: 旭川医科大学図書館 toshokan@asahikawa-med.ac.jp 内線2226



学生数 1,079名
館員数 専従9名、
非常勤・臨時2.9名
蔵書数 154,000冊
所在地 北海道旭川市
緑が丘東2-1-1
TEL 0166-65-2111

内容

図書貸出冊数のスタンプラリー。

図書館のカウンターで貸出を行った学生に、冊数に応じてスタンプを押し、20個のスタンプで大学名の入ったエコバッグを渡すというもの。

エコバッグは、入試課で前年度オープンキャンパス用に製作したもので、本学の英語名称が急遽変更した(College→University)ため使用できなくなり、倉庫に眠っていたのを譲り受けた。

また、読書推進活動として、学生支援課内でもポスター掲示など広報に協力してもらった。

エコバッグ 77 枚を配布する予定で、Asahikawa Medical University Library 77 と名付けた。

概要

対象者：学部生

実施期間：2011年7月～10月

実施場所：図書館カウンター

担当職員数：貸出カウンターでの対応1名

きっかけ

発案者：図書館（図書館情報課）

入試課で作成したCollege名の入ったオープンキャンパス用エコバッグがあることが判り、図書館ならば在学生に有効活用できると思い、譲り受けたこと。

開始にあたって

準備期間：約0.3ヶ月

準備の概要：

- ・スタンプカード・ポスター作製・掲示
- ・ホームページでの広報

広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内）、図書館ホームページ

費用：0円（全て既存の品を使用）

苦労したこと・工夫したこと

- ・何冊でバッグ引き換えにするかが難しかった。夏休み前で利用者が減少する時期なので、多すぎず、少なすぎずの冊数を協議した。

- ・貸出・返却を一気に繰り返して貸出冊数を増加させることを防止するために、スタンプ押印後に日付を記入した。
- ・自動貸出装置での貸出はスタンプの対象外としたため、苦情とならないように、あらかじめその旨を自動貸出装置に掲示した。

始めてよかったと思うこと

- ・この機会に、といつもより多めに借りていった学生や、借りた本を急いで読んで頑張った学生もあり、読書を楽しんでもらうことができたと思う。
- ・今まで図書館をあまり利用しなかったけれども友人から聞いて、と足を運んでくれた学生もあり、より多くの学生に図書館に興味を持ってもらうことができたと思う。
- ・貸出手続きの際にキャンペーンのお知らせを伝えたり、スタンプ押印の際に話をしたりする機会が増えた。

伝えたいこと

このキャンペーンは、20冊の貸出で目標達成としたが、最初から諦めてしまう学生がいたので、達成のハードルはほどほどにしないと取り組んでもらえないと感じました。しかし、図書館をよく利用する学生の中には複数回達成し、嬉しそうにエコバックを持ち帰る学生もありました。

全ての学生に満足してもらえるキャンペーンというのは難しいと感じています。キャンペーンの目的は、少しでも図書館利用者を増やすこと、楽しんでもらうこと等、図書館にとってもハードルはあまり高くない方が良いと思います。

空間

学生

教員

他部署



北海道内4大学間 蔵書交換展示会

【参加事例】帯広畜産大学附属図書館

学生数 1,392名
 館員数 専従4名・非常勤・臨時4名
 蔵書数 206,000冊
 所在地 北海道帯広市稲田町西2線11
 TEL 0155-49-5336

内容

旭川医科大学図書館・小樽商科大学附属図書館・北見工業大学図書館と連携し、学生の教養を高めることなどを目的とし、教育研究を特徴づけたテーマのもとに、相手方の図書館に所蔵されていない又は所蔵の少ない分野の図書を送り展示する。

【2012年度】

旭川医科大学・小樽商科大学・帯広畜産大学の3館で資料を交換展示

小樽商科大学→帯広畜産大 2012/06/13-2012/07/05
 「ドラッカー」に関する資料 100冊

旭川医科大学→帯広畜産大 2012/10/11-2012/10/26
 「闘病記」「メンタルヘルス」「家庭の医学」「スポーツ医学」に関する資料 100冊

帯広畜産大学→旭川医科大 2012/06/12-2012/06/28
 「食の安全」「ペット」「BSE」に関する資料 100冊

帯広畜産大学→小樽商科大 2012/12/05-2012/12/25
 「食の安全」「ペット」「BSE」に関する資料 100冊

【2013年度】

旭川医科大学・小樽商科大学・帯広畜産大学・北見工業大学の4館でそれぞれ資料交換展示

併せて国立女性教育会館より女性問題に関する資料を借用・展示

北見工業大学→帯広畜産大 2013/07/23-2013/08/13
 「機械工学」「社会環境工学」「医療工学」等に関する資料 100冊

帯広畜産大学→旭川医科大 2013/05/15-2013/05/31
 「食の安全」「ペット」「BSE」に関する資料 100冊

概要

対象者：学部生・大学院生・教員・職員

実施期間：2012年4月～

実施場所：附属図書館閲覧室

担当職員数：4名

きっかけ

2011年度より小樽商科大学と旭川医科大学間で実施されていた「蔵書交換展示」の参加について打診があり、2012年度より帯広畜産大学も参加すること

ととなった。

開始にあたって

準備の概要：

- ・蔵書の交換展示に関する申し合わせ（館長公印）を作成
 - ・各館ごとにスケジュール等調整
 - ・交換資料の選定・リスト作成 → 展示館との調整（各館により、「この分野の本を増やして欲しい」「このテーマの資料は少なくても良い」等の希望があるため）
 - ・大学の紹介・資料についての説明等の展示ポスター作成
 - ・貸出館より資料の発送 → 展示館での展示（展示期間終了後、展示館より貸出館への返送）
- ※各館同士の協議・調整には原則として電子メールを利用し、参加館の担当者全員に同報メールとして送信することで情報の共有を図った。
- 広報：掲示物（館内・館外）、電子掲示板（館外）、図書館ホームページ
- 費用：貸出時/返送時の送料、パネル・ポスター等製作のための費用

苦労したこと・工夫したこと

（帯広畜産大学での場合）

- ・閲覧室内の目立つ場所に展示し、利用促進を図った。また、平面展示を多くするなど、展示方法にも工夫を図った。
- ・新しい試みということもあり、学内広報に力を入れた。（HP/ポスター掲示等）
- ・展示内容によっては学生の興味を惹かない資料もあり、利用が思ったより伸びない場合があった。
- ・借用期間がおおむね2-3週間と短期であったので、学生の目に触れる機会が少なかった。また、借用したくとも期間内に返却ができないため貸出を諦めた利用者がいた。

始めてよかったと思うこと

- ・自館に所蔵の少ない分野の資料をまとめて借用・展示し、利用に供することができたのは大きなメリットであった。
- ・「他館の資料を自館で展示・貸出に供する」という

行為により、他館資料の装備・目録・サービス等の方法に生で触れることができ、非常に参考になった。

- ・このサービスについては、些細な事でも同報メールで他館と連絡・協議を図った。このことにより、多様な知見・意見に触れることができた。また副次的な効果として、人的ネットワークが形成され、活発な交流が生まれた。

今後の課題は…？

- ・交換資料の内容の吟味：交換した資料の内容によっては展示館の学生の興味を惹かず、貸出数が少ない場合がある。
- ・交換期間の設定調整：交換対象の図書館が多ければ多いほど、また、相手館への提供時間が長いほど、自館の資料が自館に置かれていない時間が長くなり、本来のサービス対象者への提供ができなくなる。反面、上記のように提供期間が短ければせっかく貸出しても利用が少ないこととなり、兼ね合いが難しい。
- ・交換対象館の範囲：平成25年度は道内4大学間での交換展示を行なったが、今後、交換対象館を拡大して行くか否か。拡大して行くなら、その範囲をどのように設定するか。

伝えたいこと

自館には無い、他館の特色ある資料群を直接自館の利用者に提供できる貴重な機会です。

また、他館から得られるものも多いと思いますので、積極的な交流を図ることをお勧めします。

自館として提供できるもの・提供したいものは何か、ポリシーを以て挑むと方針が立てやすいと思います。

空間

学生

教員

他部署

近畿大学中央図書館 中央図書館利用者アンケート



東大阪キャンパス

学生数 22,331名

館員数 専従11名、兼務4名、非常勤・臨時15名

蔵書数 1,464,000冊

所在地 大阪府東大阪市小若江3-4-1

TEL 06-4307-3089

内容

毎年一定期間（平成24年度は2週間）に、館内入口での用紙を配付およびWebフォームを使用して、図書館利用者に対して利用状況、サービスへの満足度などを回答してもらい、図書館の運営・サービスの改善に役立てる。

概要

対象者：すべての利用者

実施期間：2012年10月15日～10月28日（平成24年度）

実施場所：中央図書館、各分室、中央図書館HP

担当職員数：主担当者1名（但し、図書総務課全体で担当）

きっかけ

発案者：図書総務課

利用者の図書館サービスに対する認知度、利用率、満足度などを調査し、利用者のニーズを明確にし、サービスの改善に活かすため。

開始にあたって

準備期間：約2ヶ月

準備の概要：

- ① 予算計上
- ② 当年度の内容検討・決定
- ③ 学内決裁
- ④ 用紙印刷・Webフォーム作成
- ⑤ 広報活動
- ⑥ アンケート実施
- ⑦ 集計と分析
- ⑧ 報告書作成
- ⑨ 図書館運営委員会で報告
- ⑩ 結果公開（Web、図書館発行の広報誌）

広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内）、放送（館外）、デジタルサイネージ（館内・館外）
図書館HP、メール、図書館広報誌

苦勞したこと・工夫したこと

- ・ Webフォームでも回答できるようにしたこと（平成22年度より）

- ・各種広報（メール、デジタルサイネージ、掲示など）
- ・アンケートを来館者に手渡しする（アンケート中の初めの一週間のみ実施している）
- ・回答項目の見直し（毎年）
- ・分析方法の検討

始めてよかったと思うこと

- ・利用者のニーズを測ることができ、それに基づいたサービス改善などがおこなえる。
- ・毎年おこなうことにより、経年変化や動向を確認できる。

今後の課題は…？

- ・回答者の（学部など）所属の偏り
- ・図書館を利用しない学生などへのアプローチ
- ・近年回答項目が増大しており、質問の後の方は未回答で出される比率が高くなってきている点
- ・質問の重み付け
- ・相反する要望に対してどう対応するか（例：館内での飲食の可否など）

伝えたいこと

留意点（実施結果を踏まえて）

- ・戦略的な項目設定をする。
- ・回答者が答えやすいよう心がける。（文体、項目数など）
- ・学内の他の学生向けアンケート合同でおこなってもらえるなど、協力してもらえる場合はできるだけ協力を要請する。
- ・当館での Web での回答数の割合は過去 3 回いずれも全体の 10%を越えていないので、補完的なものとして考えている。但し、教員との協力体制が取れた場合は授業等で積極的に回答をお願いする。
- ・アンケート実施目的と方法について、各館にあったものを選択する。

空間

学生

教員

他部署

神戸学院大学図書館 図書館留学



学生数 10,530名
館員数 専従7名、非常勤・臨時1.0名
蔵書数 1,051,000冊
所在地 兵庫県神戸市西区伊川谷町有瀬518
TEL 078-974-1551

内容

就職活動においても重要視されている英語力をつけるため、「図書館留学」と銘打ち、図書館が、英語を学習できる場と、適切な資料を提供することにより、英語力アップを図れる環境を整え、また、様々な企画により、学生が英語に興味・関心を持ち、楽しく英語学習を継続できるよう、支援している。

「図書館留学」のメニューとして、以下の10種類を用意している。

- ①図書館留学コーナー
- ②My Favorite Book コーナー
- ③Bilingual Library
- ④多読ラリー「てくてくEnglish」
- ⑤多聴ラリー「English シャワー」
- ⑥シネマで週1English
- ⑦Reading Square ～英語で語ろう！～
- ⑧英語でBook Talk
- ⑨英語でTalk～Let's enjoy English～
- ⑩キャリアコーナー「世界を舞台に働こう！」

イベント型のサービスは「図書館留学」の10のメニューのうち、⑥、⑦、⑧、⑨である。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2011年4月～
実施場所：図書館閲覧室 他
担当職員数：3名

きっかけ

発案者：図書館利用サービス部門

図書館では、就職活動の支援としてキャリア支援グループとも連携し、「シュウカツに勝つ」の企画を実施してきた。図書館の資料の有効活用を図りつつ、就職活動においても重要視されている英語力を学生に身につけさせる方法はないかと考え、実施することとなった。

開始にあたって

準備の概要：

本企画はまず、メニュー④多読ラリーから始めることとしたため、実施に当たり、Oxford Reading Tree や洋絵本など、様々なジャンルの多読・多聴用図書の数語数をカウントするところに膨大な時間を費やすこととなった。

広報：掲示（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館 HP、グッズの配布

費用・用途：多読図書の準備、留学生のアルバイト代金が主なものである。私立大学図書館協会の機関助成金に採択され、また、同窓会より、多読図書の寄贈をいただいた。

苦労したこと・工夫したこと

出版社のサイトなどですでに語数が掲載されているものは、それを利用したが、語数が分からないものに関しては、1語1語手作業でカウントすることとなったため、労力を必要とした。

始めてよかったと思うこと

- ・図書館で様々な楽しい企画を実施することにより図書館の敷居を低くし、利用者の利用を促進できる。
- ・図書館の眠っている図書の有効活用が可能となる。
- ・教職協働の取組みが進んだ。
- ・大学内外において、教育の場としての図書館の位置付けを明確にできる。

今後の課題は…？

現在、「図書館留学」の参加者は 900 名を数えているが、今後、学生のモチベーションを下げずに、英語学習を継続させる様々な方法を考えていく必要がある。また、中国語、韓国語についても取組みを実施していく予定であるので、それについての効果的な方法も考えていく必要がある。

伝えたいこと

多読といったインプットの企画は、数多く見かけるようになりましたが、英語力の向上のためにはインプットのみでなく、アウトプットの企画も考えていく必要があります。

九州地区大学図書館協議会 Library Lovers' キャンペーン



内容

九州地区大学図書館協議会の事業（2012 年度より）。

図書館の利用促進、読書推進を目的に、毎年秋の読書週間の期間に合わせて、九州地区の大学図書館が合同で行なっているキャンペーンである。

九州地区の大学図書館が合同で行なうことによって、ひとつの大学ではできないイベントの実施、PR のインパクト増大を狙うものであり、同時に、キャンペーンの企画運営を、若手職員を中心とするワーキンググループで行なうことによって、職員の企画力等スキルアップの研修の機会にしている。

（実施体制）

- ・キャンペーンの企画運営：キャンペーン WG
- ・キャンペーン実施：参加館

（実施内容）

九州地区参加館合同のイベントと各大学独自のイベントで構成される。各種ウェブサービスも活用し、キャンペーンホームページ、Twitter、facebook、ブログ等でも展開している。

（参加館）

九州地区大学図書館協議会加盟館から参加館を募集（H25 年度は、私立大学図書館協会西地区部会九州地区研究会にも呼びかけ）。

H25 年度は、国立大学 11 館、公立大学 6 館、私立大学 21 館、短期大学 7 館の計 45 館 と、1 団体（鹿児島大学図書館協議会）が参加した。

（参考資料）

九州地区大学図書館協議会総会 Library Lovers' キャンペーン実施報告
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/qkyogikai/materials/20130419soukai>

概要

対象者：学部生・大学院生

実施期間：2010 年度より、毎年 10 月中旬～11 月中旬（H25 年度は 10 月 21 日～11 月 17 日）

実施場所：キャンペーン参加館、ウェブ上
担当職員数：11 名

（H25 年度、キャンペーンの企画運営にあたった

ワーキンググループの人数。九州地区各大学図書館から推薦)

H25 年度の参加館合同イベント：「収穫の秋 読書の芋。～九州まるっと収穫祭～」を参加館合同イベントとして実施。

九州の各大学教員・学生から、各テーマに関する本(映画・音楽も可)へのコメントを募集。教員からのコメントを芋の葉(栄養分)に、学生からのコメントを芋に見立てて、立派な芋畑に成長させてゆく企画(コメント応募総数：1,137件)。

随時、ブログで参加館の紹介、おすすめ図書のコクログ登録、参加館の「芋畑」の様子を写真で公開。

(参考資料) Library Lovers' キャンペーン 2013

<http://librarylovers2013.blog.fc2.com/>

きっかけ

発案者：国立大学図書館協会地区助成事業企画検討WG (H22年度)

国立大学図書館協会地区協会助成事業の申請にあたり、職員のスキルアップを兼ねて、九州地区国立大学図書館の若手職員のワーキンググループで企画検討した。そこで発案されたのが、「Library Lovers' Week」であった。以降、毎年実施し、H25年度で4回目となる。

開始にあたって

準備期間：約4ヶ月

準備の概要：

- ・6月下旬：WG結成
- ・7月：メーリングリストにて、合同イベント企画検討
- ・8月8～9日：WG会議開催
- ・9月上旬：九州地区大学図書館協会加盟館にキャンペーン参加館募集
キャンペーンホームページ等公開
- ・9月下旬：参加館募集締切、参加館へ実施要項送付(各館で準備を進める)
「読書の芋」のポスター、コメントテンプレート等をホームページからダウンロードできるように
- ・10月上旬：参加館から集まった教員のおすすめ図書コメントを集約して参加館全体へ配布。

広報：掲示物(館内・館外)、キャンペーンウェブサ

イト、facebook、twitter、H25年度キャンペーン公式キャラクター「いーもくん」

苦労したこと・工夫したこと

キャンペーンのWGメンバーは九州各地にいたため、顔を合わせるのは1回の会議のみ。1.5日間のWG会議で企画を決め、実施要項、ポスター、テンプレート等準備の大半を集中して行なった。これにより自館に帰ってからのメンバー各人の作業負担を軽減している。

以降の準備作業はすべてメーリングリストでのやりとり。Googleドライブ等も活用して準備を進めた。

始めてよかったと思うこと

- ・図書館利用促進・読書推進
展示の効果は上々であった。参加しやすい企画作りが重要である。
- ・若手職員のスキルアップ
課題発見力・解決力の向上、ウェブツールの活用
- ・人的ネットワークの形成
国公私の枠を超えた交流ができた。
H24年度は有志で「図書館総合展 in 熊本」に出展

今後の課題は…？

- ・キャンペーンの参加館を増やすこと
現在は、九州地区大学図書館協会加盟館が全て参加しているわけではない。大学の規模や職員数等によらず、どの図書館でも参加できるような企画を考えたい
- ・ノンユーザー、ライトユーザーのさらなる掘り起こし
本好きの学生でなくとも気軽に参加し、図書館に興味を持ってもらえるような「敷居の低い」企画の検討

伝えたいこと

- ・日頃からヨコのつながりを大事にしておくこと
- ・各地区、地域の特色を活かすこと

WSD
For Faculty & Staff
All Students

早稲田大学 オープン教育センター
Waseda University Open Education Center

佐渡島紗織先生
Prof. Sadoshima, Saori
w/ simultaneous interpreter

早稲田大学における
アカデミックライティングの実践紹介

アカデミックライティングの重要性が広く知られるようになった。その一方で課題も存在している。本講演では、早稲田大学が採行しているライティングサポートデスクの事例を紹介する。本講演では、ライティングサポートデスクの役割、ライティングサポートデスクの運営方法、ライティングサポートデスクの活用方法について紹介する。

Academic Writing Support and its management activities are a challenge for many universities in Japan. In this lecture, Prof. Sadoshima will introduce the case at Waseda University and discuss the effective support and activities. Specifically, the role, the operation and the utilization of the Academic Writing Support Desk. Each member, university, academic writing center, seminar, etc. will be introduced. Please visit our website, which will be revised and its Writing Center will be launched.

May 14, Mon.
13:30-15:00

●Dialog House 2F
国際会議室
International Conference Room

International Christian University Library
Writing Support Desk wsd@icu.ac.jp

全学で運営する
ライティング・プログラムの組織作り
早稲田大学の例

Organizing a University-wide Academic Writing Program
Case of Waseda University

国際基督教大学図書館 ライティングサポート デスク講演会

学生数	2,939名
館員数	専従12名、非常勤・臨時15.5名
蔵書数	751,000冊
所在地	東京都三鷹市大沢3丁目10-2
T E L	0422-33-3668

内容

教員のライティングサポートデスク (WSD) への理解と協力を得ることを主な目的として、全学的なライティング支援に関する講演会を実施した。

概要

対象者：学部生、大学院生、教職員
 実施期間：2012年5月14日
 実施場所：国際基督教大学ダイアログハウス国際会議室
 担当職員数：3~4名
 スケジュール：
 13:30-13:40：挨拶、講師紹介
 13:40-14:40：講演
 14:40-15:00：質疑応答
 場所：本学ダイアログハウス2F 国際会議室
 講演タイトル：「全学で運営するライティングプログラムの組織づくり 早稲田大学の例」
 主催：教養学部長室および図書館ライティングサポートデスク

講演者：佐渡島紗織准教授、Ph. D. (教育学)、早稲田大学オープン教育センター
 言語：日本語 (同時通訳付き)

きっかけ

発案者：国際基督教大学図書館ライティングサポートデスク
 図書館長代行から講演会開催の指示を受け、教員の理解と協力を得るための方法として企画・立案した。

開始にあたって

準備期間：約3ヵ月
 準備の概要：
 目的確認、開始日時・開催場所の決定、講演者との交渉、決定
 広報：ポスター掲示 (館内・館外)、チラシ (館内・館外)、図書館HP掲載、教職員・大学院生・その他関係者へメール配信
 費用：講師料

苦勞したこと・工夫したこと

講演者の選定、日程調整、内容決定、広報活動、会場選定

始めてよかったと思うこと

学部生を対象とするライティング支援サービスの展開を全学的位置づけと取組のなかで、図書館が教養学長室と共同で取り組んでいることを学内に広く示す手段として活用できた。

今後の課題は…？

- ・チューターのチュータリング技術の向上、ライティングサービスの拡大
- ・教員および学内組織との協同・連携、運営体制の整備

伝えたいこと

計画を練ったら、まず実施してみて、その結果を検討すること。失敗をおそれずよりよいものにしていく姿勢、新しいアイデアを出していく前向きな姿勢が大切です。

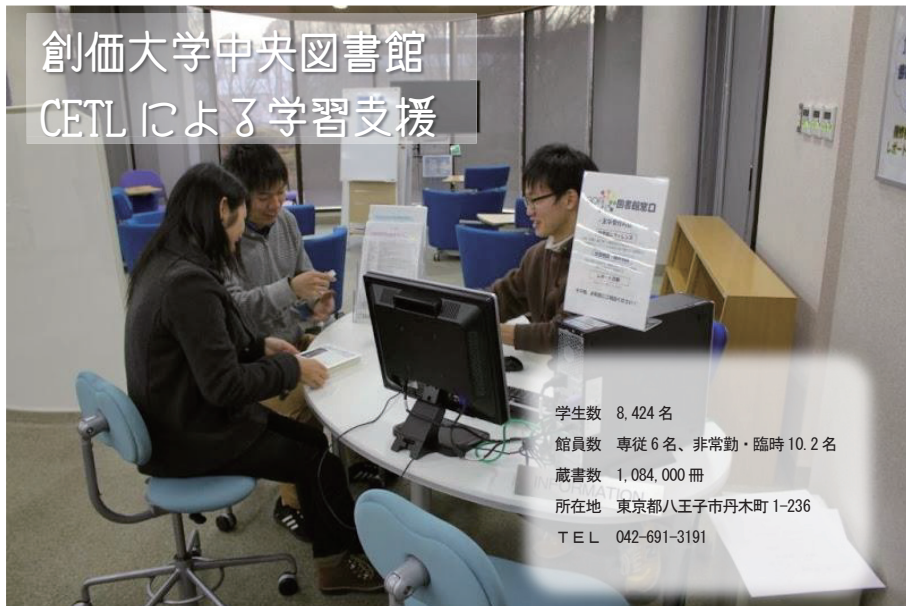
空間

学生

教員

他部署

創価大学中央図書館 CETLによる学習支援



学生数 8,424名
館員数 専従6名、非常勤・臨時10.2名
蔵書数 1,084,000冊
所在地 東京都八王子市丹木町1-236
TEL 042-691-3191

内容

本学の教育・学習活動支援センター（CETL）と、図書館が協力をして、学習支援サービスを行っている。CETL から派遣される大学院学生の TA が、レポートの書き方や学習の方法など、学習全般のサポートを行う。

<主な相談内容>

- ・ 大学での勉強法一般に関すること
例) 授業のノートの取り方がわからない、復習方法に自信がない など
- ・ 学業上の悩みや不安に関する相談
例) 今の勉強がどう将来に結びつかわからない など
- ・ 大学院進学、留学に関する相談
- ・ 履修相談
- ・ レポート診断
- ・ CETL 主催の各種講座・キャンペーンの申し込み・問い合わせ

<サービス時間・場所>

場所：中央図書館1階ラーニング・ commons内
時間：15:30～18:30（授業実施日の月～金）

※同様のサービスを、図書館とは別に CETL の窓口でも行っている（場所：文系 A 棟 2 階（A206）・15:30～18:30（月～金））

※別に、「学習セミナー」を図書館のラーニング・ commons を使用して開催している。

概要

対象者：学部生

実施期間：2013 年 4 月～2014 年 1 月（長期休業期間を除く）

実施場所：中央図書館1階ラーニング・ commons 内専用デスク

担当職員数：1 名（図書館）実際にサービスを実施するのは大学院学生の TA が交代で 1 名着任

スケジュール：

15:30 前 TA が図書館に到着し、図書館カウンターで相談用備品（茶箱）を受け取り着任

15:30～18:30 相談に対応

18:30 過ぎ カウンターに相談用備品を戻して退館

きっかけ

発案者：教育・学習活動支援センター（CETL）

CETL から提案があり、図書館で検討した。図書館では、立教大学を見学して大学院学生による学習サポートの事例を研究していた。また、2010 年より図書館カウンターの業務委託化によって、図書館員の人員が大幅に削減され、レファレンスサービスは申し込みがあった時のみの対応となっていた。

CETL としては、折角実施している学習相談 (CETL で実施) の利用者が少ないため、学生が多く学んでいる図書館で行いたいとの希望があった。

開始にあたって

準備期間：約 2 ヶ月

準備の概要：

- ・TA の雇用は、その費用 (アルバイト代) も含めて CETL が行っているため図書館の準備はない。
- ・年度の初めに、学習相談を担当する TA 向けに、図書館員がデータベース等の使用方法についてレクチャーしている。(これは図書館での学習相談の開始前から)
- ・学習相談者用のデスクおよび PC (学内 LAN に接続) を設置。
- ・学習相談窓口のパネルを作成。

広報：掲示 (館内)、チラシ (館内・館外)、学内印刷物への記事掲載、新入生ガイダンスで告知、館報

費用・用途：約 18 万円 (図書館が使用した費用は、専用デスクとチェアを購入した費用のみ。その他の、TA の雇用に関する費用や、PC 設置の為の機器および配線費用は他部署が負担。)

苦労したこと・工夫したこと

- ・相談窓口の専用デスクを、ラーニング・commons の開設 (2013 年 3 月) に当たって新調した (枝豆型デスク・椅子 4 脚)。
- ・以前は図書館のカウンターと並んでいたため、一般的な図書館サービスの質問が多かったが、場所をカウンターから離して、利用者の閲覧席に近いところに移したことによって、純粋な学習相談の場となった。

始めてよかったと思うこと

- ・ラーニング・commons として必須の人的サービスを提供する事ができた。

- ・昨年度に新設された「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択され、上記の専用デスク・チェアも実質費用負担ゼロでサービスを開始できた。
- ・ラーニング・commons の利用が徐々に定着し、学習の為の協同学習が活発に行われるようになった。

今後の課題は…?

近年、図書館の入館者数が減少傾向にある。原因は様々考えられるが、図書館の正面の食堂が新たに建て直され、無線 LAN も利用できるため、そこに従来の図書館利用者が流れていると分析している。

更に本年 9 月、学内に新たな教育棟が新設され、そこにもラーニング・commons が開設される。この施設は、大多数の学生の授業教室に近い場所にあるため、図書館への入館者および図書館のラーニング・commons の利用者が減少することが考えられる。

前述した授業教室に近い他施設のラーニング・commons での学習相談とは違う、豊富な資料を持つ図書館だからこそできる学習相談をいかに提供するかが課題。

伝えたいこと

学内の CETL の様な部署と協働する事が大事です。本学の場合、全学読書運動とコラボレーション企画を組んでおり、それから様々相談するようになりました。GP や各種の補助金申請にも情報を共有して、助け合って成果を得ております。

大学院学生の TA の教育を、以下に充実させる事も重要です。本学は、CETL 所属の教員が TA 育成の為に様々な育成プログラムを用意しています。図書館も、前述したデータベースの講習に加えて、今年からレファレンスインタビューに関する講習も行う予定です。



帝京大学メディアライブラリーセンター 共読ライブラリープロジェクト



帝京大学八王子キャンパス
 学生数 16,901名
 館員数 専従13名、非常勤・臨時4.0名
 蔵書数 667,000冊
 所在地 東京都八王子市大塚359
 TEL 042-678-3315

[数値：2013年5月現在]

内容

「共読ライブラリー」は帝京大学八王子キャンパスの図書館で実施している全学的な読書推進プロジェクトである。編集工学研究所の所長 松岡正剛氏が提唱する「本を薦めたり、読み合わせたり、評し合う」という、「共読」の考え方をベースに、編集工学研究所とともに4年間で下記4つのメニューをすすめていくことを目指している。

- ・書棚プロジェクトとコミュニケーション
- ・読書術コースウェア
- ・広報ツール作成とイベント
- ・共読空間プロジェクト

概要

対象者：すべての利用者
 実施期間：2012年4月～2016年3月
 実施場所：帝京大学メディアライブラリーセンター
 担当職員数：7名

きっかけ

帝京大学メディアライブラリーセンター（以下、MELIC）では新館建築後6年が経過し、新館への移転後順調に伸びていた貸出数の伸びが止まってきた。当初からの目標だった学生1人当たりの年間貸出冊数を7.5冊から10冊以上に引き上げる方策が必要だった。

第二の要因は大学の教育方針と社会的要請である。どのように教育と連携して読書力や情報リテラシーの向上を支援するか、学生が主体的に学ぶ環境をどうつくるか、教育連携企画の1つとして読書関連授業をサポートする目的として展示架の導入を考えたのが「共読ライブラリー」プロジェクトの始まりである。

開始にあたって

準備の概要：
 広報：掲示（館内・館外）、チラシ（館内）、放送（館内・館外）、デジタルサイネージ（館内）、図書館HP、プレスリリース、メール、グッズの配布、学内印刷

物への記事掲載

費用：非公開

苦労したこと・工夫したこと

- ・全学で「共読ライブラリー」を進めるため、学生が主体的に「共読ライブラリー」を運営している組織を作ること
- ・教員に「共読ライブラリー」推進側のメンバーとして参画してもらうこと
- ・学長をリーダーとした全学的プロジェクトのイメージ作りをおこなうこと
- ・外部の評価を大学内に還元すること
- ・すべてを記録し編集すること

始めてよかったと思うこと

- ・大学図書館の認知度が上がったこと。特に他業種の方からの問い合わせが増えた。
- ・図書館員だけでの広報宣伝活動にはマンネリと共に限界があり、異業種とのコラボが起爆剤となった。
- ・共読サポーターという学生と図書館をつなぐ存在ができたこと。学生目線を取り入れた情報の拡散が可能に。
- ・本棚展示を通して、職員のスキルが向上した。

今後の課題は…？

- ①本棚プロジェクトとコミュニケーション
Web上のOPAC書評システムの活用やリコメンデーションシステムといったバーチャルのコミュニケーションツールによる共読環境の構築
- ②読書術コースウェア
 - ・全学科導入
 - ・入門編を受講した学生に対して上級コースの提案
- ③広報ツール作成とイベント
 - ・共読サポーターによる学生対象の広報誌発行
 - ・共読グッズの作成
 - ・コンテスト形式のイベントの実施
- ④共読空間プロジェクト
 - ・MONDO書架のイメージを館内全体に拡大
- ⑤運営体制の見直し

伝えたいこと

ぜひ、いろんな図書館とコラボレーションしていきたいです。一緒に『共読』しましょう！

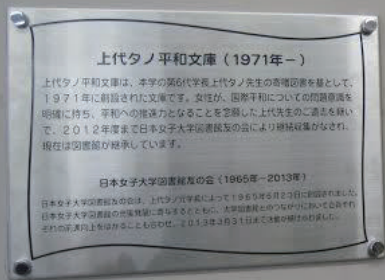
空間

学生

教員

他部署

日本女子大学図書館 卒業生による図書館友の会



上代タノ平和文庫創設者
第六代学長 上代タノ先生

学生数 6,520名
館員数 専従16名、非常勤・臨時7名
蔵書数 824,000冊
所在地 東京都文京区目白台2-8-1
TEL 03-5981-3195

内容

日本女子大学図書館友の会は、本学第6代学長上代タノによって1965年に創設され、次のような諸活動を通じて大学図書館の充実発展に尽くし、会員相互の前進向上をはかることを目的としていた。

2013年3月末を以って閉会した。図書館とは別組織。活動内容は以下。

- ・日本女子大学図書館の参考図書購入補助
- ・上代タノ平和文庫の選書、収書、管理、運営の補助
- ・学園関係資料収集、整理補助
- ・卒業生著作調査及び目録作成
- ・各種講座、読書会開催
- ・文学館、文庫、美術館、図書館等見学、文学散歩など
- ・会報（年3回）の発行

概要

対象者：友の会の趣旨に賛同され、所定の会費を納めた方。会員の種類と会費は以下。

- ・日本女子大学全学園の教職員、旧教職員、卒業生、在校生、卒業生の父母または友の会会員の紹介を受けた方。
- ・年会費は創設時1000円、金額改定を経て、1993年度以降は一般会員5000円、維持会員10000円以上。

実施期間：1965年6月～2013年3月
実施場所：図書館内、学内、学外
担当職員数：図書館長、図書館役職者

（友の会事務局は図書館職員とは別組織で、常任幹事1名がスタッフ（年代により1～7名）を統率。）

きっかけ

発案者：本学第6代学長上代タノ
上代タノが、米国視察の際、スミス・カレッジにおける“Friends of the Smith College Library”

の存在に感銘を受けた。

1956年に本学の学長に就任し、1964年に本学図書館を新設。その翌年に、新図書館を支援するために「図書館友の会」の設立を提唱した。

開始にあたって

準備の概要：上代タノが設立を提唱し、設立の趣意書を作成。学内・学外に広く呼びかけ、協力を求めた。

広報：掲示物（館外）、チラシ（館内・館外）、図書館HP、学内印刷物への記事掲載

費用：平成24年度 500万円程度（大学とは別会計）

始めてよかったと思うこと

- ・本学図書館発展、充実への寄与（資料費補助、上代タノ平和文庫の発展など）
- ・卒業生著作に関する調査、目録作成
- ・文化的活動を通じた会員相互の前進、向上
- ・図書館利用資格を持たないが友の会の趣旨に賛同して入会された方に、図書館利用の途が開かれていたこと

伝えたいこと

日本女子大学図書館友の会は図書館とは別組織であり、事業は友の会により遂行されました。友の会事務局の活動を身近に見てきた経験上、仮に図書館本体が友の会的な活動内容による図書館の後援会的組織を立ち上げ継続していく場合、その運営には相応の負担が予想されます。

大学図書館の後援会的組織の特典として、一般的に、図書館の利用（図書の貸出など）が考えられます。きわめて特色ある蔵書をもつ図書館においては、この特典のみでも後援会（会費制）が成立するかもしれませんが、プラスして、文化的活動（講座、研修会など）を継続提供し成功させていくことは、生涯学習的な場が多様に提供されている現在において、図書館内の一事業として取り組むには相当周到なプランが必要と思われます。



新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部図書館

ヨム得



学生数 1,664名
館員数 専従3名、非常勤・臨時5.8名
蔵書数 145,000冊
所在地 新潟県新潟市中央区水道町1-5939
TEL 025-230-7748

【数値：2013年5月現在】

内容

本を読んで図書館のビブリオバトルと生協の読書マラソンに参加し下記の特典を Get! しようという企画。

【特典】

読書マラソン：コメントカード 10冊分で生協利用券 500円分進呈

ビブリオバトル：チャンプブックに選ばれた人に500円分の図書カード進呈

<連携部分>

- ・図書館・生協のカウンターでのエントリーカードの受付。
- ・読書マラソンのコメントカードの受付。

概要

対象者：学部生、大学院生

実施期間：2012年1月～

実施場所：図書館

担当職員数：2名

きっかけ

発案者：図書館

読書推進活動の一環として図書館のカウンターで生協の読書マラソンのエントリーカードとコメントカードの受付をしていたので、読書マラソンの参加者にビブリオバトルもアピールしてお互いに参加者を増やすことができると考えた。

開始にあたって

準備期間：約1ヶ月

準備の概要：生協の担当者と話をして店長の承諾を得て、チラシやポスターを作成して広報した
広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館ホームページ、twitter

費用：0円（学内の資料を利用したので、特別に費用はかかっていない）

始めてよかったと思うこと

ビブリオバトルや読書マラソンとも参加者の増加にはあまりつながっていないが、図書館広報のチ

チャンネルが増えたのは良かった。

今後の課題は…？

単にお互いのエントリーを受け付けるだけでなく、企画自体を連動させていく必要がある。

伝えたいこと

生協も読書マラソンの参加者を増やしたいと思っているので、協力は得られやすいと思います。

但し、生協側からはあまり動いてくれないことが予想されますので、図書館側から積極的に働きかけることが必要かもしれません。



空間

学生

教員

他部署

二松学舎大学附属図書館

図書館×キャリアセンター共催

『就活』に役立つツールの活用法を教えます！



九段キャンパス

学生数 3,114名

館員数 専従3名、非常勤・臨時0名

派遣職員等6.3人

蔵書数 190,000冊

所在地 東京都千代田区三番町6番地16

TEL 03-3263-6364

内容

図書館で契約しているオンラインデータベースの中から、就活に役立つ4つのデータベース（東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー、日経テレコン21、JapanKnowledge、MAGAZINEPLUS）の活用法について、専門家を講師に招き、実際にデータベースを使用しながら活用法を学んでいく。

概要

対象者：学部生、大学院生

実施期間：2012年11月

※毎週木曜日／全4回開催

実施場所：パソコン教室

担当職員数：3名

きっかけ

発案者：図書館

図書館だけで情報検索講習会を行ってもなかなか参加者が集まらず、どうしたら学生に興味を持ってもらえるか苦慮していたところ、たまたま参加したワークショップ（紀伊国屋書店主催「2012年デー

データベース・ワークショップ」）で、他大学の図書館が就活をテーマに情報検索講習会を開催していたこと。

開始にあたって

準備期間：約4ヶ月

準備の概要：

キャリアセンターや代理店との下打ち合わせ／告知ポスターやチラシ、ホームページのお知らせの作成／図書委員会の承認、学内の決裁／講習会の配布資料、アンケートの準備

広報：掲示（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館HP、大学HP

費用：0円

この講習会のために確保した予算は0円という意味。正確には、事務室でポスターやチラシ、配布資料を印刷した際のコピー料金はかかっているが、その分は算出できない。

講師には、無料で講習会をしていただいた。

苦労したこと・工夫したこと

・募集開始後もなかなか参加者が集まらなかったの
で、先生方の研究室に直接伺い、授業やゼミでの

宣伝をお願いした。

- ・キャリアセンターと共催していたので、キャリア教育の授業等でも宣伝してもらった。
- ・代理店から、販促用のグッズで余っているものを提供してもらい、講習会の参加者に配った（喜んでもらった）。

始めてよかったと思うこと

- ・おそらく図書館単独では集めることができなかったであろう人数の学生に参加してもらえた。
- ・図書館で使えるデータベースに興味を持ってもらえるようになり、利用数も増えた。
- ・就職に関しては、早くから危機感を持っている学生が多かったため、そのニーズに応えることができた。
- ・他部署と連携することにより、横のつながりが密になった。

今後の課題は…？

- ・効果的な宣伝方法。
- ・開催場所の確保（図書館内で講習会を開催できるスペースがないのでパソコン教室を使用したのが、授業が入っていて使えない時間が多く、結局 18 時 20 分からと遅い時間の開催となってしまった）。
- ・年に複数回の開催。

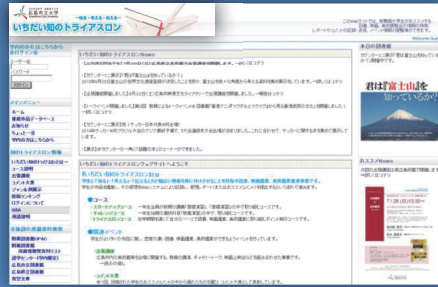
伝えたいこと

アンケートの回答では、今回の講習会を「何より知りましたか」という項目では、「図書館内の掲示」が一番で、次いで多かったのが「先生の紹介」でした。先生の協力は強力です。

講習会にかかる時間は「90分」が一番妥当のようでした。

また、参加者からは、「会社四季報の見方が知りたい」「大企業や有名企業より、優良な中小企業を探す方法を知りたい」という声が多く寄せられました。

広島市立大学附属図書館 いちだいい知のトライアスロン



学生数 2,155 名
 館員数 14 名
 蔵書数 320,462 冊
 所在地 広島県広島市安佐南区大塚東 3 丁目 4-1
 TEL 082-830-1508

[数値：2013年5月現在]

内容

学生に「知る」「考える」「伝える」力と、幅広い教養を身に付けさせることを目指す読書・映画鑑賞・美術鑑賞推進事業。

この事業は、学生が作品を鑑賞し、その感想を Web システムにより記録し、感想レポート（またはおススメコメント）を提出するという流れで進む。読書、映画鑑賞、美術鑑賞というのは個人的な楽しみだが、より深いものにするため、作品の推薦や感想レポートへの返信等で教員が学生に関わる体制を整えているところに特徴がある。これは、学部を越えた学生と教員の交流にもなっている。また、全学の初年次教育カリキュラムに本事業を組み込んでいることも大きな特色。さらに、広島市内の美術館等と連携し、映画、美術鑑賞の出張講座を実施することで本学の学生だけでなく、広く広島市民にも本事業のサービスを提供している。

概要

対象者：学部生、大学院生、卒業生
 実施期間：2010年4月～
 実施場所：読書、作品推薦などは Web システムの利用、出張講座は学外（美術館等）
 担当職員数：17名（うち 教員8名、職員9名）
 スケジュール（年間）：
 前期（4～8月）：基礎演習（スタートアップコース）
 4月：前年度コメント大賞表彰式
 6月：ブックハンティング、映画上映会
 後期（10～2月）：教養演習（チャレンジコース）
 11月：ブックハンティング
 12月：映画上映会
 2月：コメント大賞選考
 年間：トライアスロンコース、出張講座（年4～5回）、展示（年12回程度）、教職員による作品の推薦、学生図書館サポーター、推薦図書・映画の提供 など

きっかけ

発案者：大学執行部

大学カリキュラムにおいて教養教育の再構築が大きな課題となっていた。一方、学生の活字離れの傾向が本学でも顕著になり、その防止を図ることが大学図書館で課題となっていた。

こうした課題を解決するための方策として、集中して多数の本を読むことで読解力、理解力、思考力が身につく、映画や美術鑑賞をすることで豊かな心が養われ、ひいては教養を高めることが可能になると考えた。

身近な教員から薦められた本や映画、あるいは美術展を紹介されれば、学生はもっとそれらに親しんでくれるのではないかと、そこを入口にして読書の楽しさに気づき、映画や美術に親しみ、学問への関心も高まるのではないかとこの発想がきっかけでこの事業が開始された。

開始にあたって

準備期間：約9ヶ月

準備の概要：

教員への協力依頼（図書・映画等の作品の推薦、コメントの返信）、推薦作品を中心とした事業用の図書・映画等の購入、学生への呼びかけ、専用コーナーの設置、専用Webシステムの構築

広報：掲示（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、デジタルサイネージ（館内・館外）、図書館HP、学内印刷物への記事掲載

費用・用途：100万円程度（図書等の購入費、ウェブサイト開設費、パンフレット印刷費）

苦労したこと・工夫したこと

- ・学生の参加を促すため、初のトライアスロン実施委員会を立ち上げ、同委員会のメンバーや基礎演習担当教員の協力を得ながら参加者数を増やす工夫をした。
- ・学生に幅広いジャンルの作品に出会ってもらえるよう、専用コーナーで図書館職員が12ジャンルの図書を交代で展示する「ジャンル別展示」を開始した。その内容はウェブサイトでも公開し、学生が学問分野以外の図書に出会う場を設けることができた。

始めてよかったと思うこと

- ・学生や教員と密接に関わり、支援できるようになったこと。
- ・事業を通じて他の附属施設（芸術資料館、語学センター）との連携が図れ、それぞれの特色を生かした多様なサービスが可能となったこと。
- ・選書基準により購入が難しかった分野の図書（例：小説等）を購入することができ、学生の実態に合った選書ができるようになったため、そのコーナーの貸出冊数の増加や図書館利用の促進につながっていること。
- ・この事業の中でブックハンティングや学生図書館サポーター制度を導入することができ、学生の声が以前より聞きやすくなったこと。

今後の課題は…？

- ・読書や映画等の作品鑑賞の上級コース（チャレンジコースやマラソンコース）に継続して挑戦する学生を増やすこと。
- ・出張講座等のイベントへの学生参加数をさらに増やすこと。
- ・広報

伝えたいこと

本学のこの事業は、執行部、教務委員等、教員の協力に負うところが大きく、図書館職員だけでの実施は困難です。

図書館独自の取り組みでなく本学のように授業と連携し強制力を持たせるとい手法も、目的達成のためには必要であり効果的と考えます。

広島修道大学図書館 図書館でシューカツ!!

特集 図書館でシューカツ!!

Library News

いば、就職活動とは違うものの、何をどうしたら良いのか分からない...という人はいませんか? 就職活動は、しっかりと準備をしておくことが大事です。今、就職活動中の人も、これから本番という人も、図書館に所蔵している資料を活用して、就職活動に役立ててください。

1F101 111 121 131 141 151 161 171 181 191 201

2F

3F

学生数 6,183名
館員数 専従16名、非常勤・臨時12.2名
蔵書数 800,000冊

所在地 広島県広島市安佐南区大塚東1丁目1-1
TEL 082-830-1112

内容

図書館のできる就職活動の支援として、図書館発行人物『Library News』の中で、特集記事を組んで掲載。関連部局のキャリアセンターに協力を依頼、情報提供をしていただいた。3 ページで構成した記事のうち、図書館資料やデータベースを見開きで紹介、残るページはキャリアセンターメインの記事を掲載した。図書館には業界本の常設コーナーがあるが、今回の記事に合わせて就職活動関連の資料を展示。

概要

対象者：学部生、大学院生
発行年月：2012年10月
担当職員数：2名

きっかけ

発案者：図書館
就職活動に関連する特集は、今までに掲載したことがあるようで一度もなかった。他大学図書館の広報誌等では就職活動関連の特集記事がよく掲載され

ていることを確認し、本学での掲載を提案した。編集会議の段階で発行の時期と就職活動開始の時期も合っていたことから、特集記事を組むことを決めた。

開始にあたって

準備期間：約1ヶ月
準備の概要：キャリアセンターへの協力要請
図書館所蔵資料検索、資料収集など。

苦労したこと・工夫したこと

- ・「就職活動」がテーマであったので、図書館だけで完結させずに関連部局であるキャリアセンターに協力を要請した。そこで得た情報、大手企業の就職サイトや出版物等も参考にし、記事に反映させた。
- ・ただ資料を紹介するだけでは利用者の関心を引くことはできないと考え、就職活動の一連の流れをSTEPに分けてレイアウトを構成。各STEPに合った資料・データベースを写真とともに紹介することとした。
- ・掲載する資料については、まず関連する分野の書

架へ行きブラウジング、内容を吟味した。表紙の装丁の華やかさも選書のポイントとなった。キャリアセンター推薦の資料も紹介。推薦資料が図書館に所蔵されていない場合には、図書館で新たに購入・受入をした。

- ・ 今回の記事に合わせて、展示コーナーに就職活動関連の資料を展示した。

伝えたいこと

- ・ 初めての試みがいくつかある中で不安はあったが、チャレンジする気持ちがタイミングや環境を味方につけた。面白い・やってみたいと思うことには、恐れずに挑戦する姿勢が大切だと学んだ。

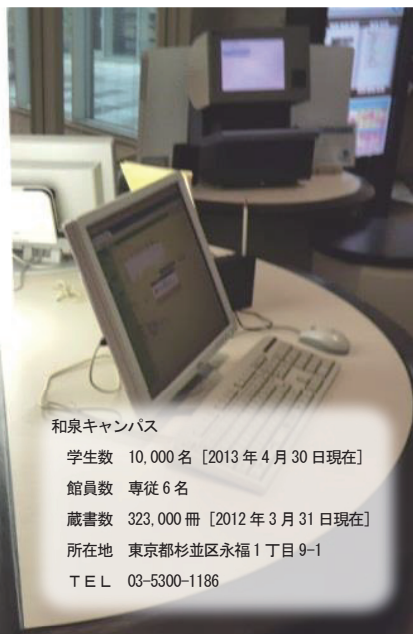
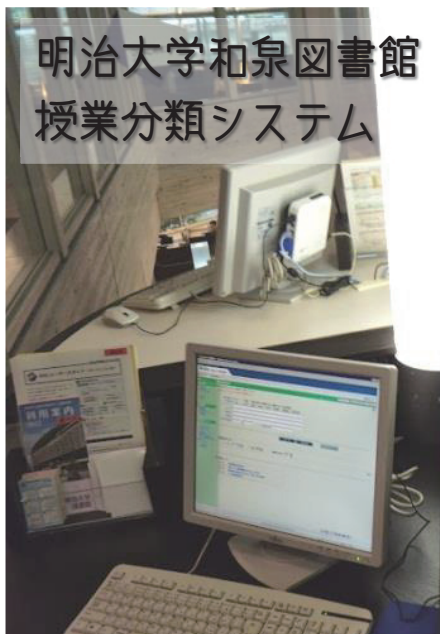
空間

学生

教員

他部署

明治大学和泉図書館 授業分類システム



和泉キャンパス

学生数 10,000名 [2013年4月30日現在]
館員数 専従6名
蔵書数 323,000冊 [2012年3月31日現在]
所在地 東京都杉並区永福1丁目9-1
TEL 03-5300-1186

内容

シラバスの内容を参考に、各授業に分類を付与し、授業と関連する資料を授業名や担当教員名から検索することができる。

概要

対象者：学部生

実施期間：2012年4月～

実施場所：図書館 OPAC 上のオンラインサービス

担当職員数：5名（実施に向けた自主勉強会の参加人数）

きっかけ

発案者：図書館総務事務室 システム担当中林氏

図書館のもっとも専門的業務の一つは分類の付与であるが、十分に活用されているとはいえない。分類を多方面で活用することにより図書館員の専門性の価値を高め、図書館の教育支援活動の充実を図るサービスを検討していたのがきっかけ。

開始にあたって

準備期間：約24ヵ月

準備の概要：

- ・システム開発
- ・図書館における合意形成
- ・予算の獲得
- ・分類付与業務を実施する業者の確保

広報：

- ・掲示物（館内）
- ・チラシ（館内）
- ・図書館ホームページ
- ・twitter

費用・用途：60万円（シラバス約2,000件への分類付与作業費、システム開発費等は内部開発のため不要）

苦労したこと・工夫したこと

- ・図書館システムとのシームレスな連携
- ・予算の確保
- ・適切な分類の付与

始めてよかったと思うこと

まだ学生には浸透しておらず、効果の検証が未実施のため、メリットは挙げられない。開発者としては、分類の新たな可能性を示せたのが現時点での最大のメリットではないかと考える。

今後の課題は…？

- ・利用者（学生）への周知と予算の確保
- ・図書館のサービスへの理解

伝えたいこと

大学側のシラバスシステムの大幅なシステム変更に対応するため、現在サービス停止中です。(2013年4月シラバスシステム変更)

予算も十分に確保されていないため、再開のめどは立っていません。

開発者の人事異動により、サービス継続が困難となっています。独自のサービス、システム導入の際には全般的に言えることですが、事業継続を念頭に開発等をされることをお勧めします。

空間

学生

教員

他部署

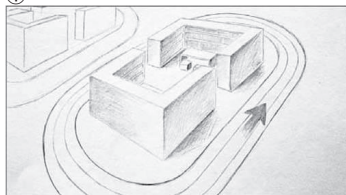


コラム① ドイツ人が考える「快適な図書館空間」

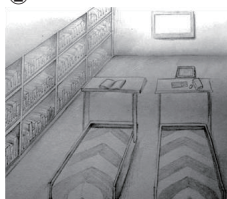
まずは下の図をご覧ください。何だか想像できますか。

これはドイツの公的機関 **DINI** が 2009 年に「生きた学びの場」をテーマに全国規模で学生に「快適な図書館像」について募ったコンテストの応募作を紹介する講評集に掲載されたものです。

①



②



それぞれの図には説明があり、①は「体をリラックスして勉強の能率を高める動く道」、②は「ゆっくり動くベルトの上で読書を楽しむ」とあります。補足すれば、どちらも閲覧席にベルトの動く歩行帯を設け、①はブース内で勉強に疲れたらその周りを動くベルトに乗って散歩をする、②は動くベルトの上で歩きながら勉強や読書をする、というものです。

ドイツ人は人一倍散歩が好きな国民です。「ちょっと散歩をしましょう。」と言われてついでに行ったら 1 時間以上も歩きまわってヘトヘトになったという経験をしたことが何度もある私ですが、図書館内にまで散歩を取り入れるという発想はドイツ人ならではかもしれません。

コラム② 学生とイラストでコラボしてみました！

立正大学情報メディアセンターでは、図書館で働く学生アルバイトを“ライブラリアン (Librarian) の卵”、略して“りぶたま”と命名し、書架移動や装備、レファレンス補助、DVD 上映会の企画・実施など、様々な図書館業務を手伝ってもらっています。

そのうちのひとつとして、学内でもじわじわと人気が出てきているのはりぶたまが描いてくれているイラストです。本学では、年 2 回発行のライブラリーマガジン

『立正本遊』^{りっしょうほんずき}の表紙や挿絵、館内で配布している葉、その他掲示物などへイラストを掲載しています。

ライブラリーマガジンの表紙はその年の干支にちなんだイラストを掲載、2013 年度で創刊 3 年目を迎えます。また、葉には館内マナーについて楽しく学んでもらえるよう 4 コマ漫画形式でイラストを掲載。その 4 コマ漫画にアニメーションをつけたものをディスプレイを使って館内を流し、マナーについて呼びかけることも行なっています。

きっかけは学生さんが休憩時間に何気なく描いていたイラストから始まりました。皆さんの大学にも、コラボするきっかけがゴロゴロ転がっているかもしれません！

